2021年1月14日

国立大学法人山梨大学教育学部附属幼稚園 様

公益財団法人 ソニー教育財団
ソニー幼児教育支援プログラム
審査委員会

2020年度
「ソニー幼児教育支援プログラム」審査講評

貴園は、2か月半に及んだ臨時休園中にICTを活用し、「子どもが心を揺らし、直接的な体験へといざなう新たな試み」に挑戦され、主題「科学する心を育てる」に迫る研究に取り組まれました。

進級した5歳児は、クラス替えで初めて同じクラスになった友達と会えず、ICTを通して「声の手紙」を届け合い、繋がりを感じていることがわかります。P10では、入園したばかりで不安なA児が、自粛期間中に園から配信された動画を見ていたことで、「？」のところへ行くと安心する様子。P13では、分散登園中に毎日、保育者が撮影した友達の遊びの写真を目にすることで、トカゲ探しという活動が、A、B両チームの子どもたちの共通の関心事になっていったことが分かりました。発見や互いの情報提供を楽しむ子どもの様子からは、一人一人が、自分なりの形でICTを通して繋がりを楽しみ、対面で直接会えなくても、ICTが子どもたちの心を繋いでいることが読み取れました。

「動画を通しての交流は、伝える側と、受け取る側の役割が分かれており、『伝える力』を伸ばした」と記述にもあるように、「科学する心」は、ICTを用いても育つことを明らかにしたことが評価されました。

これら、ICTで心と心が繋がり合い、知らないことを知ろうとすることや、新たな発見を心から共に喜び合うことが求められる今、子どもたちが心揺らす体験を大切にされていることは他園の参考にもなります。

本年度は子ども自らが発見し、心を動かす遊びの事例が少なく感じられました。次年度は、子どもから沸き上がる「科学する心」の実践のご報告も期待しております。

貴園の益々のご発展を祈念いたします。

審査のポイント

- 必須項目の「『科学する心を育てる』についての考え方と取り組みのテーマ」「具体的な子どもの姿に基づく実践の報告」「実践の考察」「考察に基づく課題と今後の方向性や計画」が記述されているか。
- 貴園のテーマや保育実践から子どもの「科学する心」（感性・創造性の芽生え）の育ちが見えるか。
- 子どもの発達や園の環境（人的・物的）など実態を考慮して保育し、考察や今後の課題・計画が示されているか。
- 子どもの主体性や感性、発想・意欲を活かし、保育の中での創意・工夫のあるユニークな取り組みが展開されているか。